

生きるということ

～ 愛・逢い・哀 ～

清瀬ちこ



ひろい宇宙のなかに
生かされているわたし

生かされているのは

風にゆさぶられている、みどりの木々
道端に遠慮しながらさいている、名もない草花
道のうえを急ぎあしであるいている、蟻

みんな生かされて
揺さぶられて
遠慮しながら、さいて
急ぎあしで、あるいて

せいっぱい
太陽をあびて

せいっぱい
風をうけとめて

せいっぱい

匂いを放って

生きていることを叫んでいる



はっぱがきみどりになってるとい
びょうきになったのときく

ああ、あれはね、
はっぱの赤ちゃんなのよという
へえ、はっぱも赤ちゃんうむんだという

おとなになったら
赤ちゃんうむんだという
たくさん、たくさんうんで
おかあさんになるという

あなたの目にうつるもの
どうして？で埋まっていく

あなたの目にうつるおかあさんは、
笑っているのですか
怒っているのですか
泣いているのですか

おかあさんは笑ってないと、ね

ささやかなしあわせ

残さずところにしまいたい

ありがとう、うまれてきてくれて

ありがとう、笑ってくれて

ありがとう、ありがとう



まっくろの闇のなか
しずかな寝いきをたてて
ふたつのいのちは生きている

とけいの針が
しずかさを際立たせて
ふかい闇をみつめる

ゆめのなかでは
笑っているのでしょうか
泣いているのでしょうか

このいのちにまっすぐ
生きるだけのわたし

嫌なことも
いいことも

このいのちにまっすぐ
生きるだけ

いのちを守るのは
なんて苦しいのでしょう
なんて強靱なのでしょう

すべてはただ、そのほほ笑みに
愛という名のもとに生きるだけのわたし



なぜ怒るのか
なぜ苛立つのか

怒るひと
苛立つひと

ほほ笑みをなくしたのは
わが子のせいですか
それとも
自分のせい

ほほ笑みは
おかあさんからの贈りもの

わが子を抱いたら
ほほ笑みがあふれ

わが子が笑うと
つられて笑うのです

(それなのに)

ほほ笑みをなくしたひと

(それなのに)

苛立つひと

あなたを求めるわが子

あなたを恋しがるわが子

あなたは大人です

あなたは親なのです

わが子には、ほほ笑みを

せめて恋くらい、してほしいのです



空にむかいつつましく顔をあげて
そのほそい肩と身で
よけいな葉はもたずに
すっと背をのばし
華美ではないほどの花びらをかさねて
大きすぎないほどの華やかさで
匂い立つでもなく
わずかに香るほどの甘さをまとわせた
やわらかでまっすぐな人に育ててほしい



おなじ服

おなじ靴

おなじ髪

おなじものを揃えて

おなじことをしてやる

おなじじゃないと

やっかいだから

やっかいは、めんどうだから

おなじでいいなら

いつまでも

おなじでいいなら

にぎにぎしく

ふたごはなかよし

なかよしはしあわせ、ね



この生活が愛おしい
こどものいる生活が愛おしい

愛おしさは
芯となって
核となって

真綿のようなかるさで
錨のようなおもさで

生活のささえとなり
家族のささえとなり
家庭のすがたとなる



ほんのりとあまく
やんわりとしろい

もっちりとしっとりとした感触の
すこし汗のにじんであるおでこに
くちびるをよせてみる

まだ、うぶげのような生え際の髪の毛が
わたしのほほにかかるとき、
あなたの匂いにつつまれる

(いつか)

ふれることさえもできなくなって
交わすことばも減ってしまうのでしょうか

てをのばせば
あなたにふれられるしあわあせ

もうすこし、だきしめていたい

おたんじょうび、おめでとう

五才をむかえ、おめでとう

うまれてきて、おめでとう

(うまれてきてくれて、ありがとう)

いきてて、おめでとう

(いきててくれて、ありがとう)



女どうし
くるしみも
かなしみも
知っている味を分かちあい

さびしさも
つらさも
知っている味に涙みあう

すこしのからさを与えあい
ぼけた味をひきしめる

ふしあわせには支えあい
しあわせには大笑い

あなたとともだちでよかった



日常のなかに
ずっと馴染んで

気がつけば
あたりまえで

あたりまえが
ひつようで

ひつようが
なんなのか

まだ、こたえはわからない
いえ、ゆっくりと知っていきたい

あなたのなかには
どんなわたしがいるのですか

あなたのなかには
どんなひとがいるのですか

淡いあこがれ

どうなるのでしょうか

いろづくのでしょうか

からっぽのからだ



かなしいことが訪れると
景色がきえて
にじんだ涙がこぼれて
つらいという

こころがゆさぶられると
風がとまって
からだがうごかなくて
ころんだりする

考えるまでもなくて
思うでもなくて
感じるだけでたどりつく

ひとのこころは隠せない
からっぽなのが隠せない

誰に隠すのでしょうか

かなしいこと
きえたこと
こぼれたこと
つらいこと

なにを隠すのでしょうか

ゆさぶられたこと
とまったこと
うごかないこと
ころんだこと

怯えるように
いのるように

しあわせにおもいを馳せて

あしたの安寧をねがうだけの
からっぽのからだ

あしたをしんじるだけの、こころ

カブよく、はじめましょう



いいことも
いやなことも

いっぽすすんでは
またもどって

もどったところから
すすむのでしょうか

もどったところから
また、はじめましょう

もどったところから
大またあるき

カブよく
また、はじめましょう



しずかに、ふかく
たくさんの水を湛えた湖のよう

しずかな風となり
なにもなかったように
ひとびとを呑みこんでいく

入ろうとすると
水しぶきをあげて
太陽の力をかりて
かぞえきれない煌きをくれる

たくさん湛えた水のなかには
ひとびとのかなしみ
よろこび
いつくしみ
溶けあい交ざりあい響きあい

しずかに、ふかく
ひとびとに呑みこまれていく

生きるということ

～ 愛・逢い・哀～

<http://p.booklog.jp/book/51507>

著者：清瀬ちこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/marupyonlove/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/51507>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/51507>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ